

2017年(平成29年)6月1日(木)



三島梅花藻の里で清掃する曾佳琦さん(中央)と張琬珮さん(右)＝グラウンドワーク三島提供

# 三島のノウハウ台湾へ

## 社区大学の2人 環境再生など学ぶ

源兵衛川をはじめとする環境再生やまちづくりの手法を三島市のNPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)から学ぼうと、台湾の生涯学習の拠点である「社区大学」(コミュニティーカレッジ)の女性スタッフ2人が4月26日から約1カ月間、GW三島で研修を受けた。5月22日に市内で研修成果報告会が開かれ、2人は「環境は変えられる。使命や目標が大切と分かった。得たものを台湾で生かしたい」などと語った。

台湾には社区大学が83校あり約40万人が登録しているという。GW三島は昨年9月、台南社区大学と環境交流

協定を締結し、渡辺豊博専務理事がアドバイザーに就任している。研修を受けた2人は、社区大学の全国組織スタッフで台湾大出身の張琬珮さんと、ボランティアスタッフで2児の母の曾佳琦さん。源兵衛川・三島梅花藻の里での清掃活動▽公園の植え込みの枝切り▽水生生物調査▽ニンジンの種まき――などを体験し、GW三島の組織運営も学んだ。

報告会で曾さんは「年齢も団体も異なる人が同じゴールを目指すプラットフォームを作ったことがGW三島の素晴らしさ。三島の人々は自然再生の実践に価値を見いだしている」と語り、張さんは

「環境改善やまちづくりは長期的な活動が必ず必要と感じた」などと話した。【石川宏】



研修の成果などを話す曾佳琦さん(中央)＝三島市本町の三島市民活動センターで